

昭和8年(1933)

Imaizumi Shigeo

だらくと

絵をかくBOOK

昭和八年二月二十六日、銀座伊東屋で

愉快な日だった。

朝から横浜にお出かけ、本田と二人で。

照國をのぞき 是處にあらにんた。先輩
の wireless officer にも昔話をきか
せて、そして JGC へ行った。

親切な二人の人のお蔭で、一時はばかり
二人で 実際通信をやった。初めての操
縦で、まじったか、やぶに交胸がっ
来た。

あと、イギリス船にあらにんた。

僕に、おそろしい交胸振りだ。葉が
ぶよりうむが、やぶ、これは、一時はばかり
Wireless Room で可愛、イギリスの
operator の説明をきいた。判りが
らうか、いぢあな、か？

彼れ、操縦をあるき、それから Tokyo
の銀座。

くた、くたにきつた脚を、いきつて、ふと
伊東屋に這入り、んで、之を買った。

懐更をかこう人た。



1933 22
模

何かあつて、料からわーって款をオラと
紳衣、モリスはこつこつとらうと来た

「YES OK だー！ー！ー」
紳衣が書
いた某紙は、

「日本のオペレーターかした」
「どめ何？」
「無校の生徒だよ」

「船にのこる事あるか？」
「海が荒い格は？」
と筆談であ

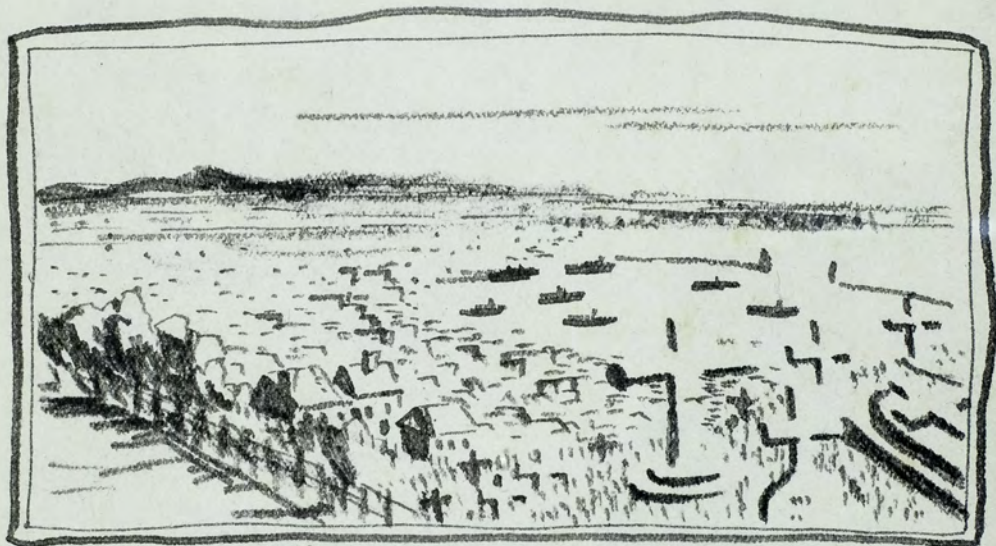
る、
機械の説明になると、こつちがこつこつと
らなるほどよく判る。大まか船のくせに

SPARK ONLY だ。

「自働教習は其君でまっくくやるま
でまかく判るなから、安全百報
（をまけるのたさうだ。」

RECIEVER を働かこつこつと、YOKU
HAMA, NAGUYA だ。

「短波のオモやふ分機をいっぱりだして
ま、あんまが先づとんととつて、
ま、可憐少年オムとだ。」



YOKOHAMA
1933. 2. 26.



外國船が着いた町。

1933. 2. 26.





本日は二人で 一時間ばかりおじやました。
 そのこと、元々復々の船と関係のこと。
 やって来ると、思ってたより、出来である。
 交渉の問題で、
 実際はほせやられたこと、そちらが
 急に交渉が、いとおろそかかーと。

JGC 見学

横濱港税関港務部検査室

1933.2.26



日本電波株式会社 を見学この かり、
折から 直リか、つた。 エビスビール 会社の
あて。 一同 評議 也。

「お、これには、此処も、 見学してどう
じゃあ、いか？ えい！」

どうも 代表者 = 人が あつたまじく
のさ々々 と 内の中 に 言入つておつた。

1933. 2. 25



Meguro Muren Kosho sho.

1935. 3. 4.





1933. 3. 12. 目黒駅前

1933. 3. 14.

ヨ—ヨ—時代'

観音

こうぼうも筆の
あやまりござよ、僕
だこしくじりま
すよ





1953. 3.14. 駅の出口 (成塚小田)



Mr. Roko boko
chapman no 2

got it by J. L. B. F.

1753.3.17.



1952. 3. 27
紙芝居.

華美と醜惡とが、逆一つに
同居してゐる。

富と貧が拵、まをがら、そいふ
うすくまつてゐる。

嬌声と、轟声とが、混然一
の調子をとらゐる。

紅いネオンサインと赤い危険燈
が、かゝやき、まをたいて
ゐる。

明と暗、表と裏

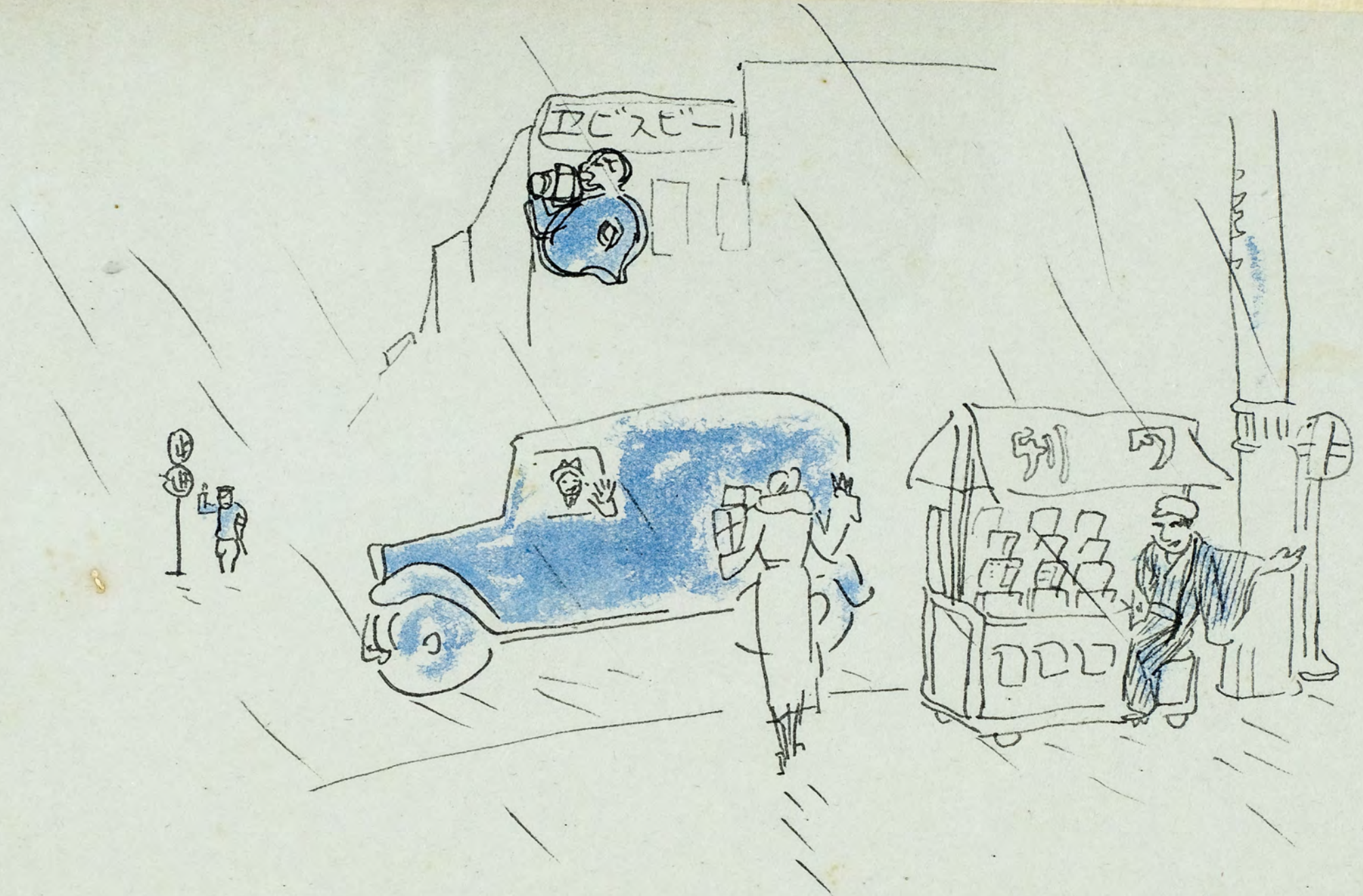
両あがりの闇窟に、はめこ
人が探さ、銀貨の夜号
号外賣りが街角でやけに
鐘をならしてゐる。

事件！ むり収え、こゝにあり！



1939. 3. 19.

銀座を歩く

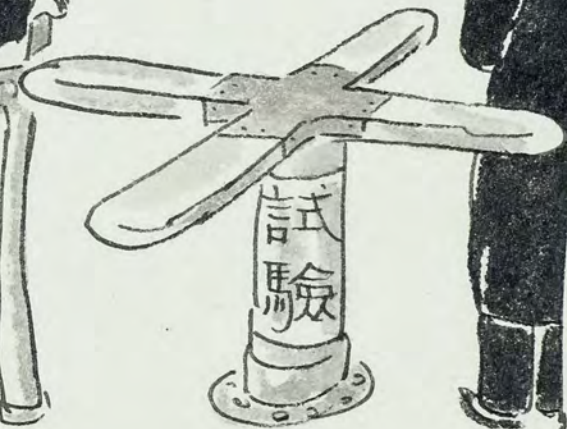


1933 3. 21

朧

臨時入館

自昭和八年五月二日
至昭和九年五月一日



1933. 3. 31.

試験と就職

四月十日から試験だ。
 養老があるが、何となく勉強する気が
 ない。もういっしょからたかう。
 こもつてから勉強しなさい。事にはさよう。
 世は春だ。婦人小供博覧会なんの申かれさう。

五月三十一日

通信試驗



通信試驗
 立會人



井原の原に
 おころんが墓も
 味も

昭和八年三月二十九日
 1923.3.29

通信網の試験が思ったより早く終了あ
つたので、後から出て来る。本田を待た
せして、効外敷よりに出かけた。

卒業試験が直ぐあとにあるとみえ
ぬ。たゞ気分がさびしくて、ポカ／＼と暖かい
雑木林や、文化住宅の見える景は、
をえつてよめいた。

すぐ後に効外電車の土手のある
草の原にゆこうんだ。

枯草の底から縁の新しい芽が伸
びて来ている。

つくしをゆえべつたま、で十本二十本
と意味をなくつみながら無駄活
をいた。

土のあち、かみをオーバ—ごこに感じお
が／＼つくしを裸にして口にもつてみた
した。

送電用の鉄塔が眠るはるかにはつらおそ
い。



お世木帰人

50銭
= 集

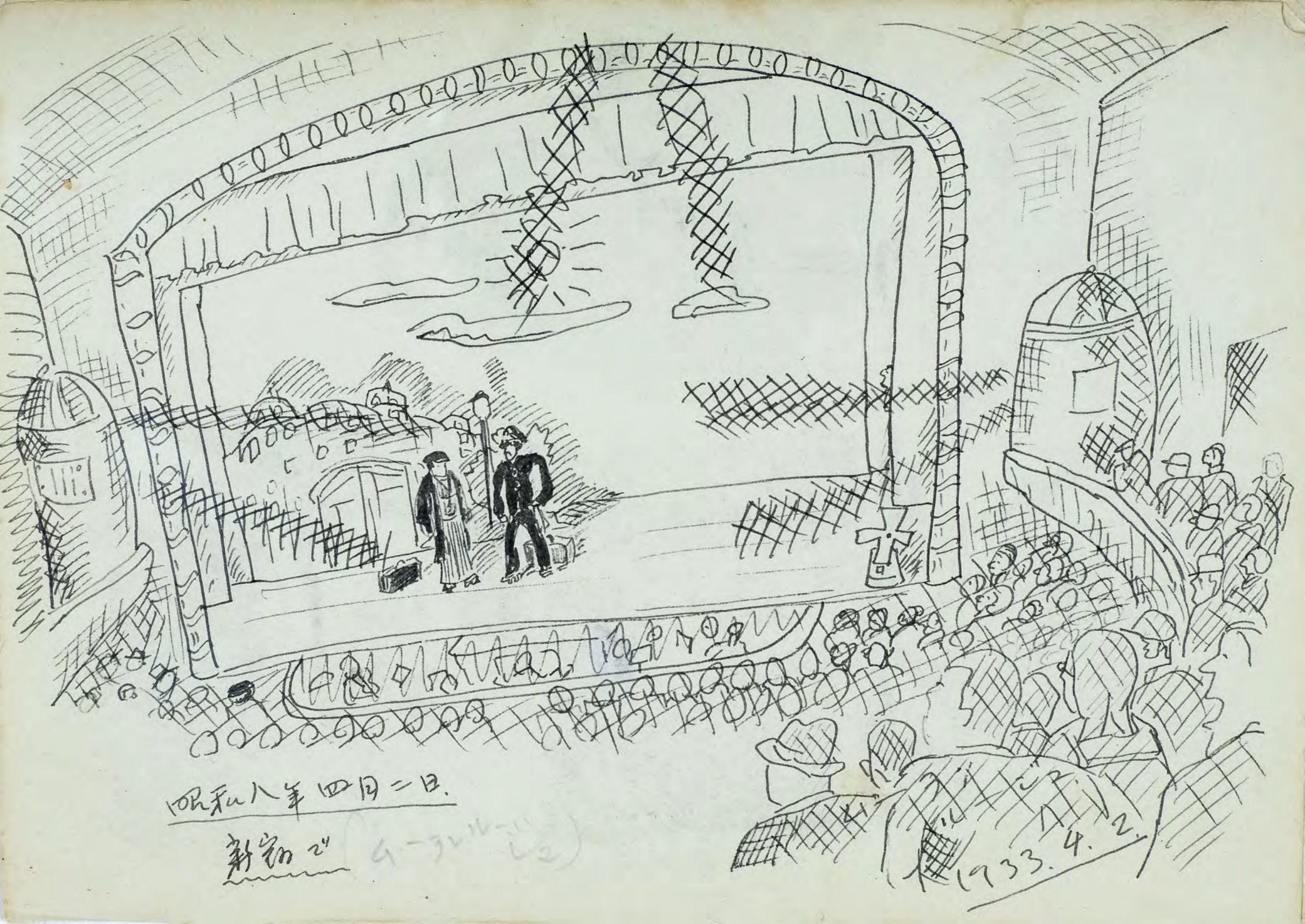
1933. 3. 27.
TEREKI
才木村談字舎



十月廿九日

1937

7.30



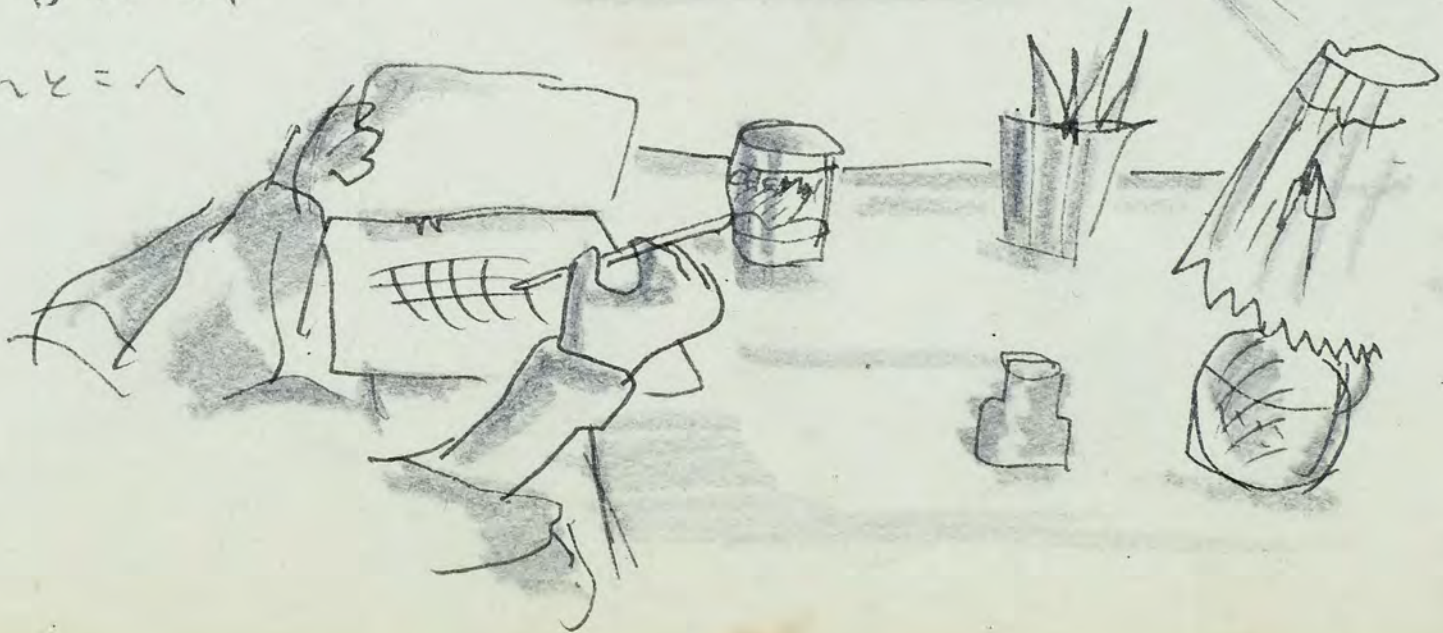
1933年四月二日

新站 24

1933. 4. 2.



昭和八年四月六日、
 突然大P畏さんと二人
 分りた。
 先以試験に
 二人の時の
 勉強法。



ア
チよいせ

あんちゃん

そこのまじりまじり

くんとおにいちゃん



ア
たかり

一九三三、四一十八



櫻が咲いたころに
卒業試験

1933. 4. 18.

春日

二子川

1933.4.19.





満洲の樺の女

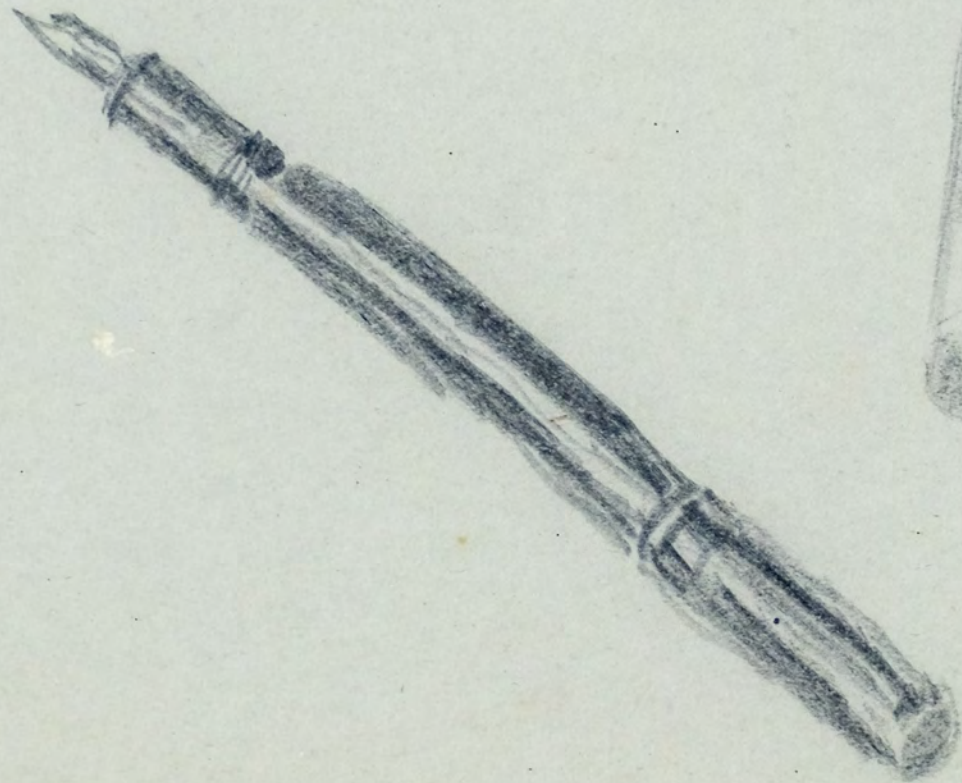
電信校に白墨を振り

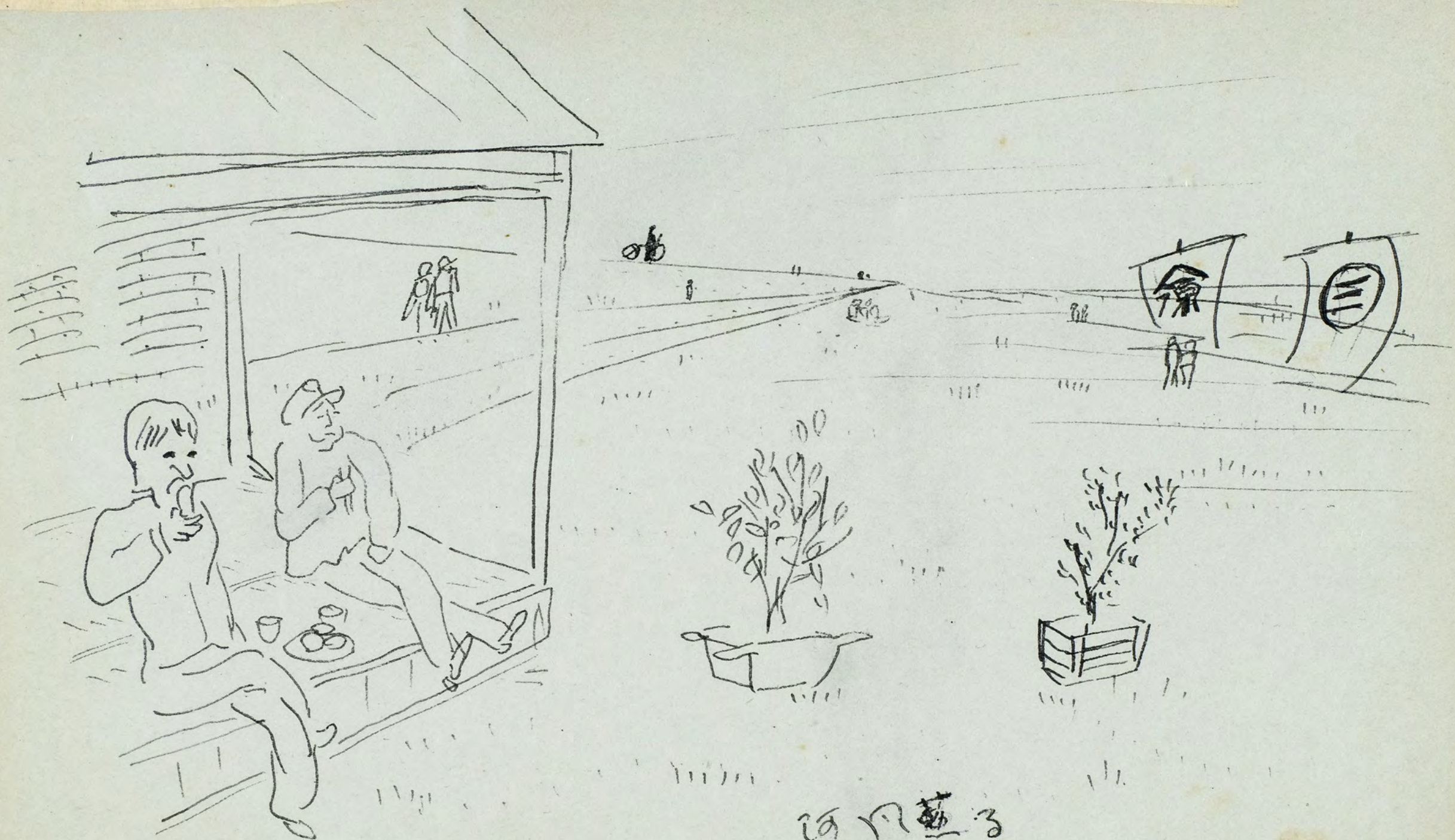
モダン見聞の白紙

ちんごらん カンニングの新年

卒業試験の早

1933
9.20

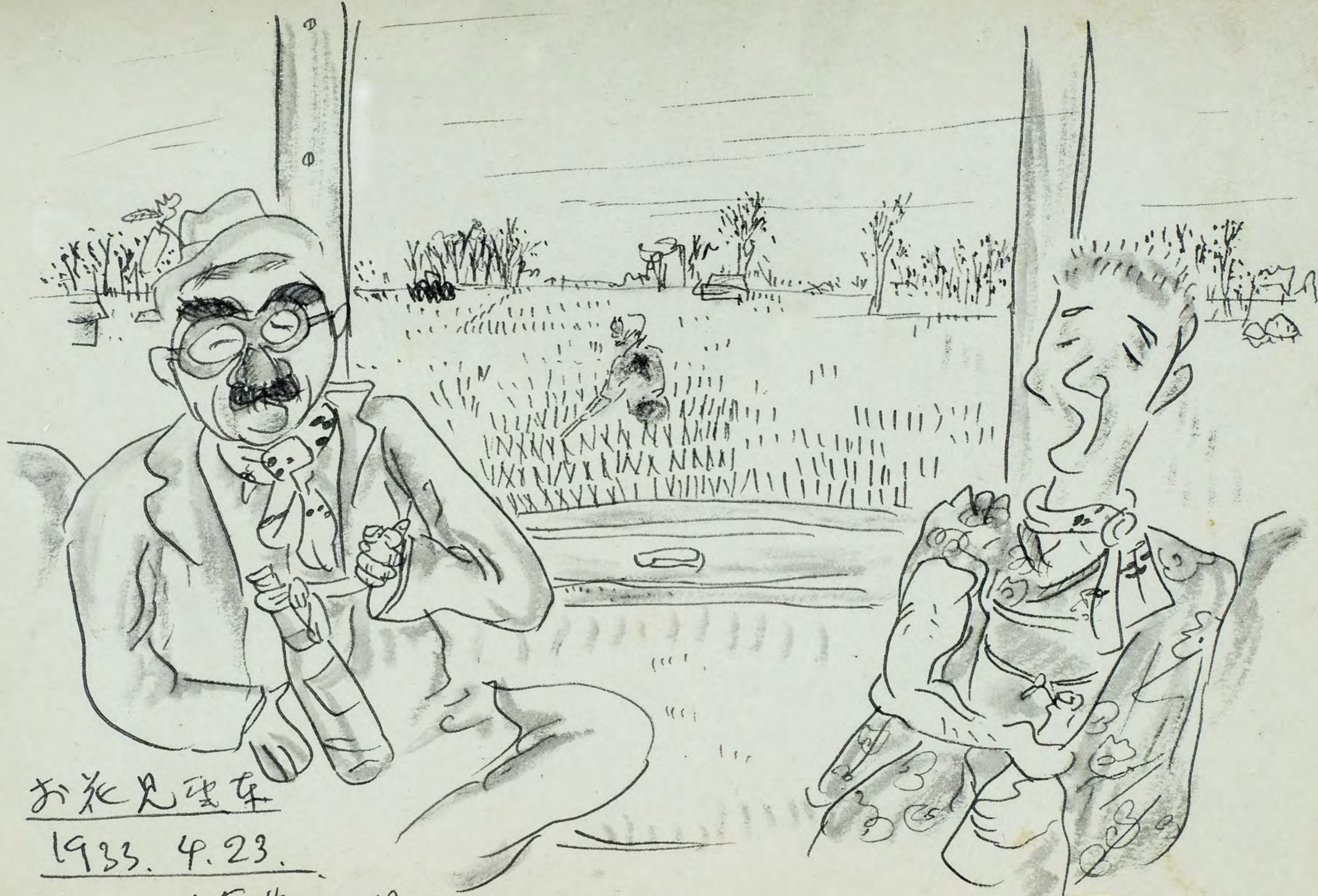




河内燕子

二五五'14

1933. 4. 19.



お花見電車

1933. 4. 23.

小笠井へ行く。



小倉井の村

1933. 6. 23.



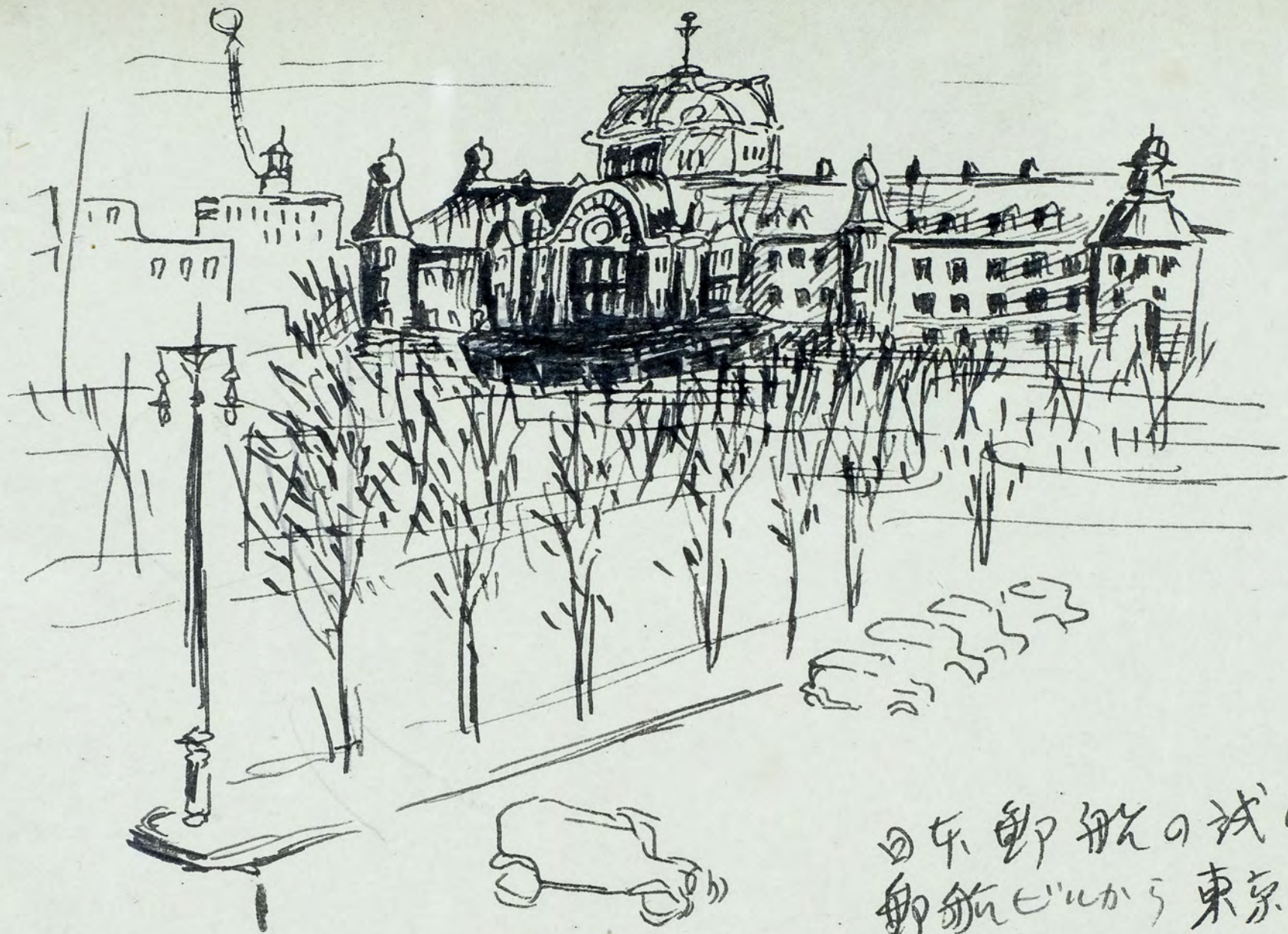
はじめの奢度服

1933. 4. 22.

大隈さん奢れを着用に因りかへるの図



1933. 5. 14



日本郵船の試験のあった日
郵船ビルから東京駅を三丁目の
交差点に見た。

1933. 5. 5



1933. 5. 5.

錦州後街の路景



1933. 5. 10.



1933
5.16
G²₃



1955. 5. 21



昭和七年製

(七七〇)

昭和八年五月十六日

逓信博物館を見る。

平賀瑞ゆ 造ると

ころの工シキテル

おあつた。

上図の如きもの

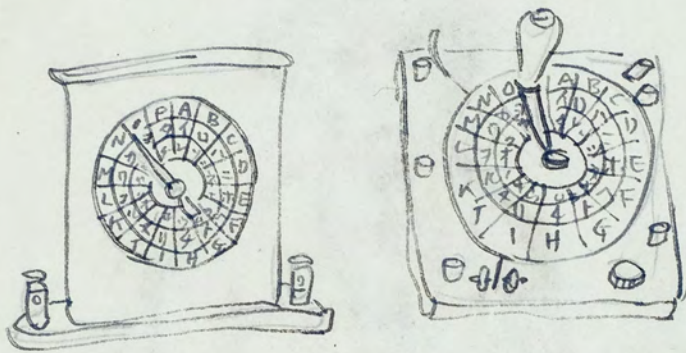


黒船がやこ来た
 とき。
 ペリルが 甘布新に
 献上したもの。
 受信機。
 樽渡で 受信を張
 え 実験して せめた
 さうじ。

一八五三

五月十九日





東京一横濱向 最初の電信送受信機





祝賀新年 五竹枝のお菓太炊
の 祝儀工事の要領違い

1933. 5. 16.



1935.
5.26.

2/20/35



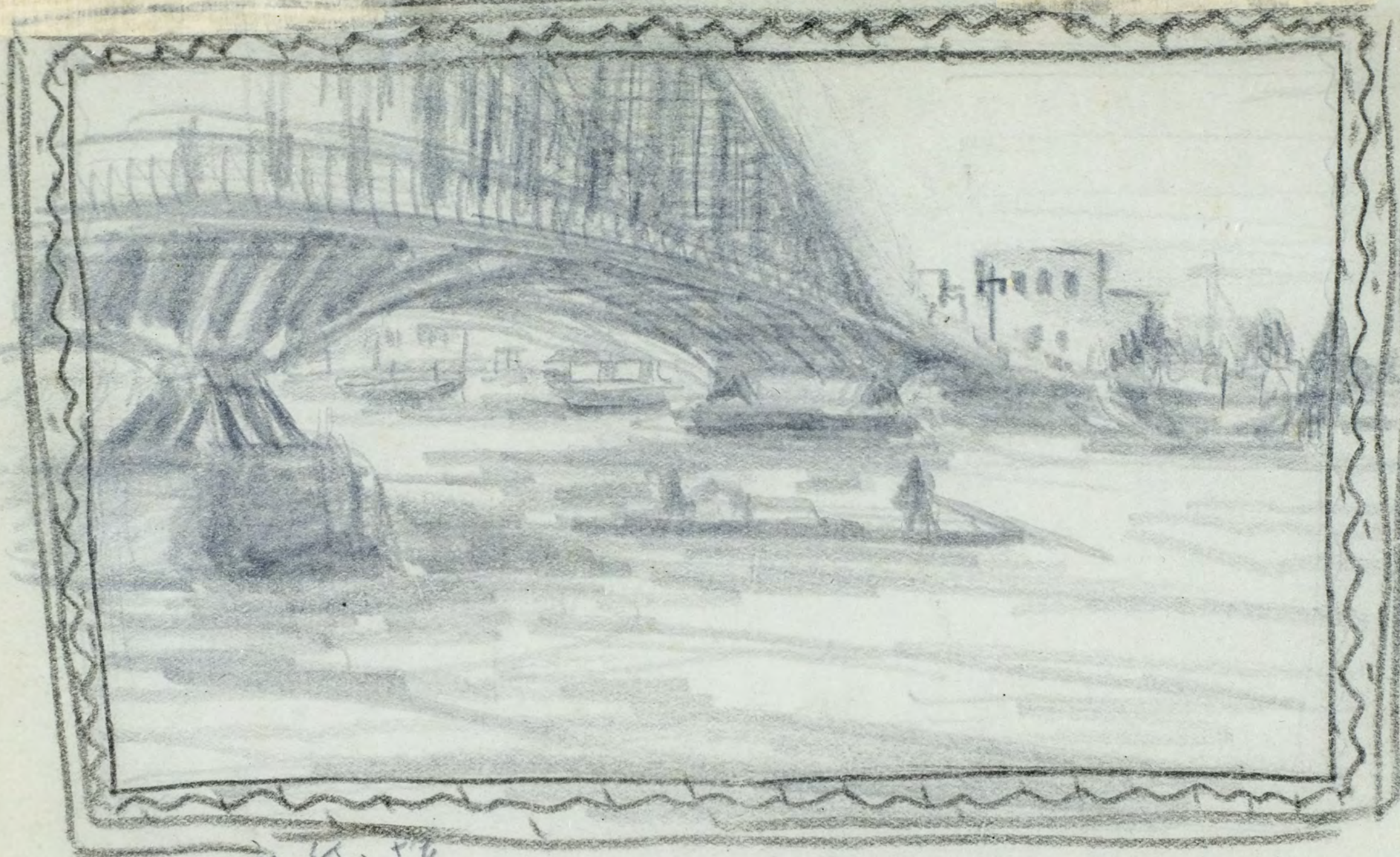
一鐵

1933 5.26.



漢州稿

1955. 5. 26.



新橋

1933. 5. 26.



曲島園風景

1933. 5. 31.



井頭公園

1933. 6. 4.



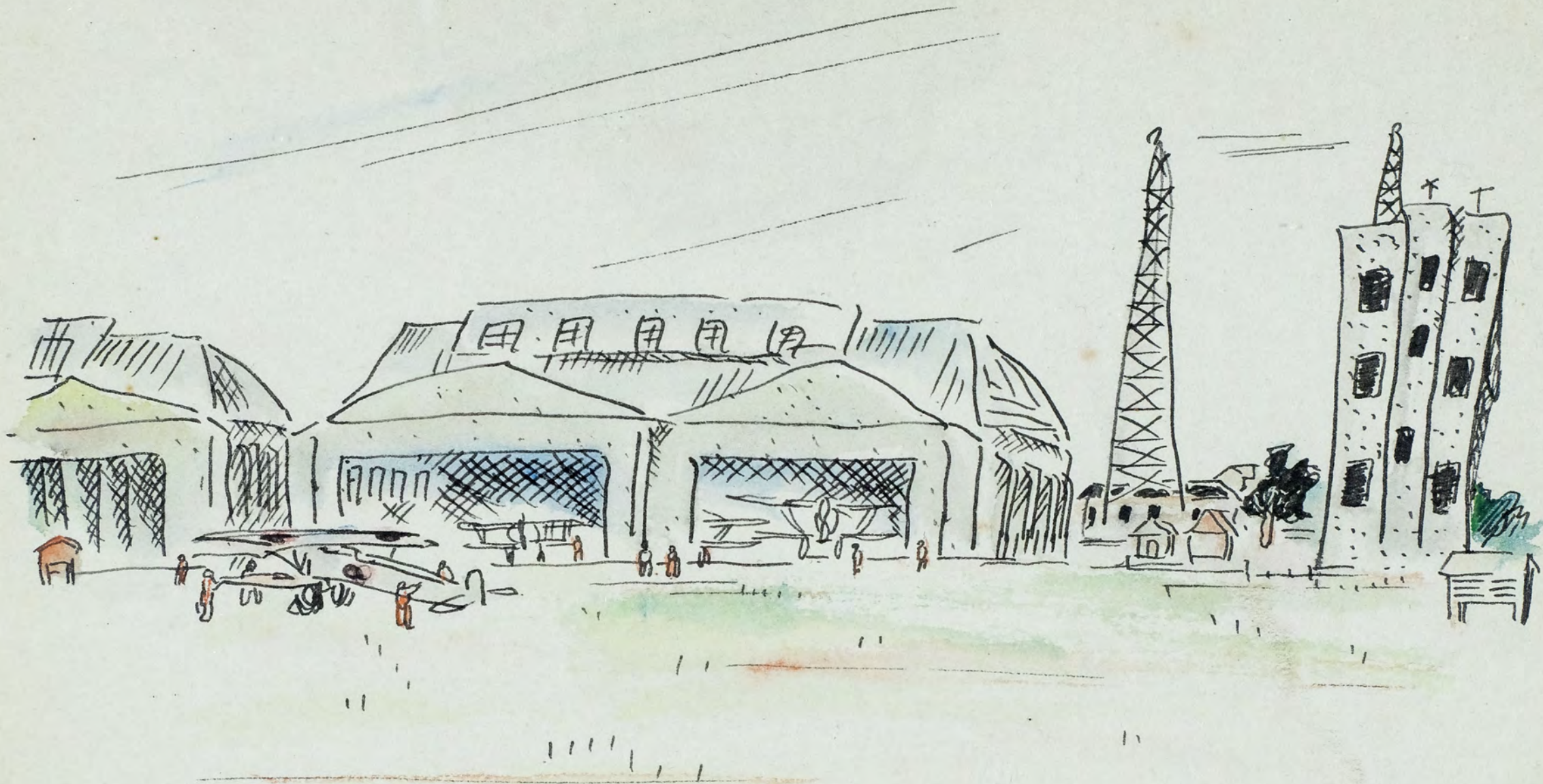
天山个京
侯翠妍等场

1953. 6.



老川飛田場

1933.6.20



空川中央隊飛行機格納庫

千九百三拾年六月二十日



八子街

1933.6.20.



馬場神社

1933.6.20.



初日！ 指齋着用の！

1933.6.24.



1933. 7. 5.

池袋を望む



清水港内運河

1933.8.1



1935. 7. 6.

豊島、江古田方面



1933.7.6.

東京市郊外 (豊島)



請同胞注意

1933. 7. 10.



戸山と京

1933.7.12



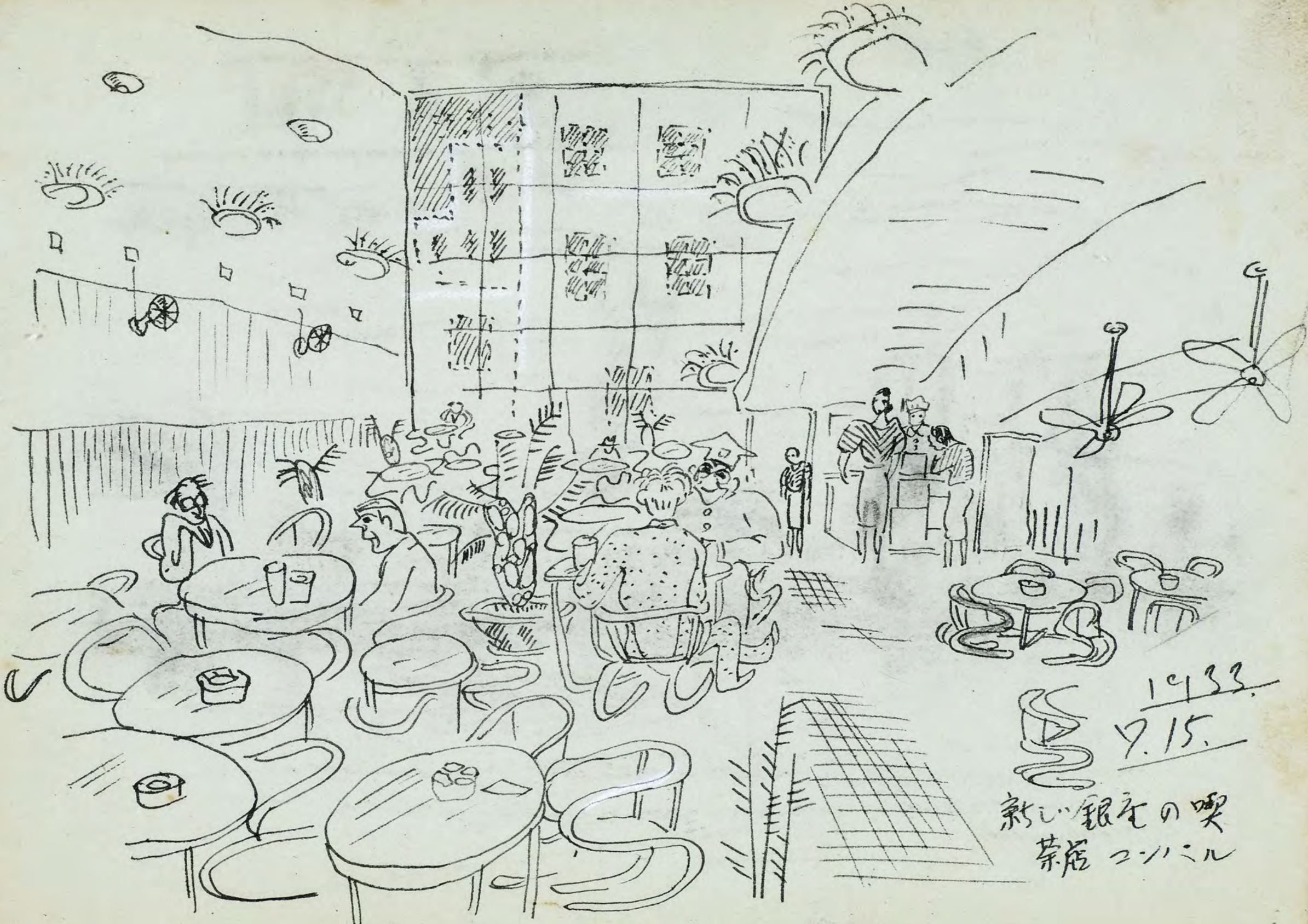
陽見川
かちどきの夜 1933.7.12

十九日
七月十二日

月島海水浴場

芝浦





1933.
7.15.
新しい銀座の喫
茶店 コッパル



羽田穴岸海水浴場

1933. 7. 16.



羽田海水7-14



天津

天津海岸

1933. 7. 17



② 新津海岸

1933. 7. 17.





清水市

入江名 榎橋

又三三三

七月十八日

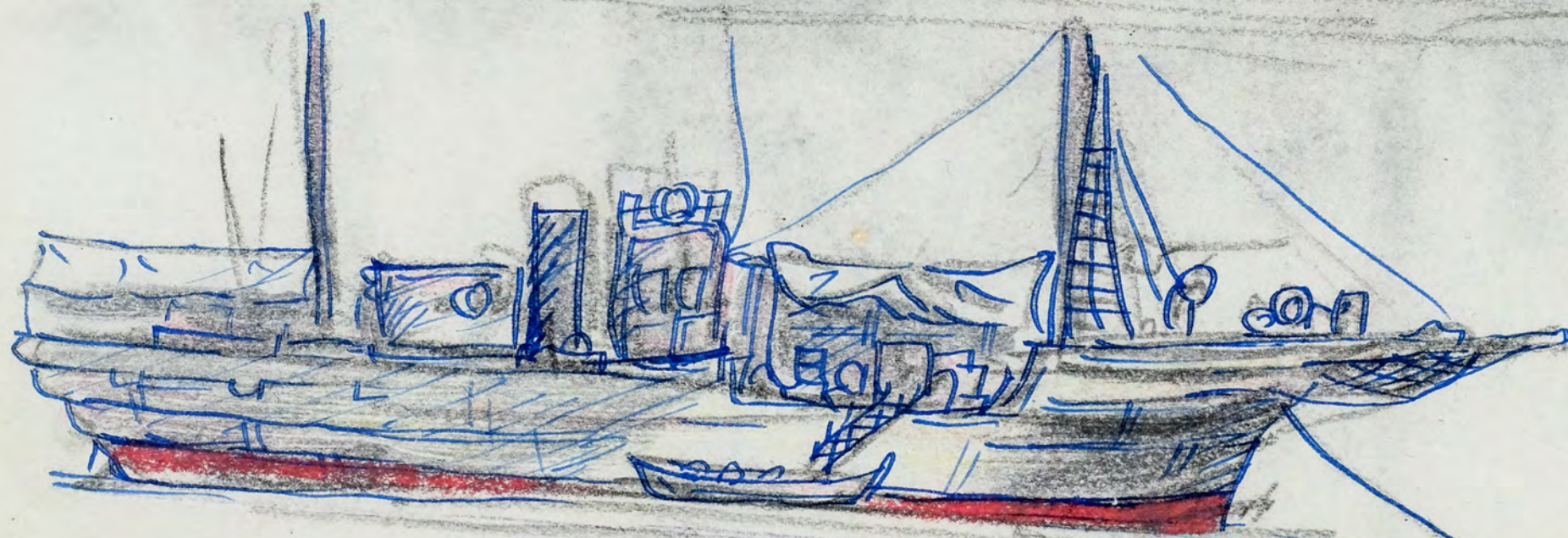


静云郷

清水港

1933. 8. 23.

清水で一月ほどたつた後で。
今やこの港に在るといふ感じのする港。
その港街の感じを、東海道時代の田舎
新道町が急いでかさねておるといふ感じ。



18
21
9
4
1/2

1937



東海道清水の街
の女行商

1933. 7. 23,





江天新道。

新道在海道旁。



1933.7.24.



家の隅

1933. 7. 24.



清水港
潔船



1 仔 の 海

1933, 8.1,



芭蕉 12 1-70"

1933. 8. 1.



1933. 9.

清水附近



清見寺の陸橋題に

遠く五保の木の原、清水の港をみる。

S.S. 7. 28.

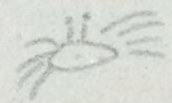
興津清見寺
一八三三・七・三





1933. 8. 6.

神師ヶ島 海水浴場



1933. 8. 8.

清水の天竺橋の花火





潛水港也
運河。 杉木製場。

1933. 8. 12.

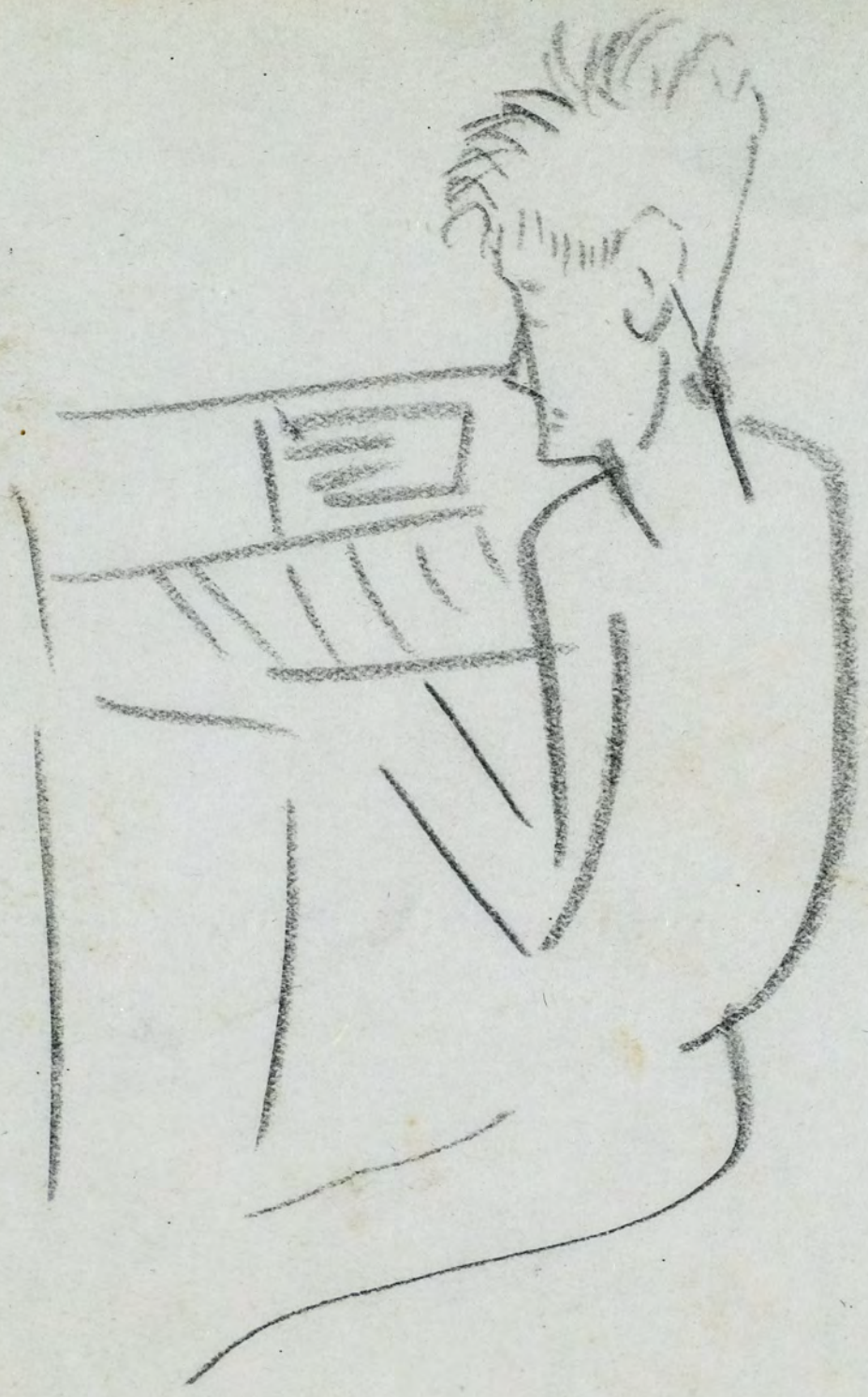


鹿野藏探

才宗

1933.8.13

清水



今更に世にRINKU



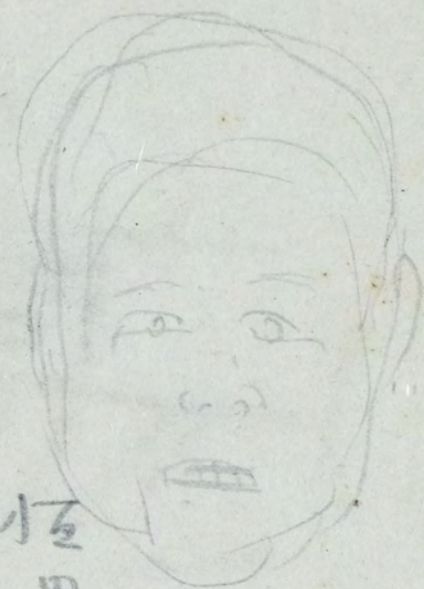
(2729 2027.5)



恒夫



達夫



恒男



恒



恒



恒

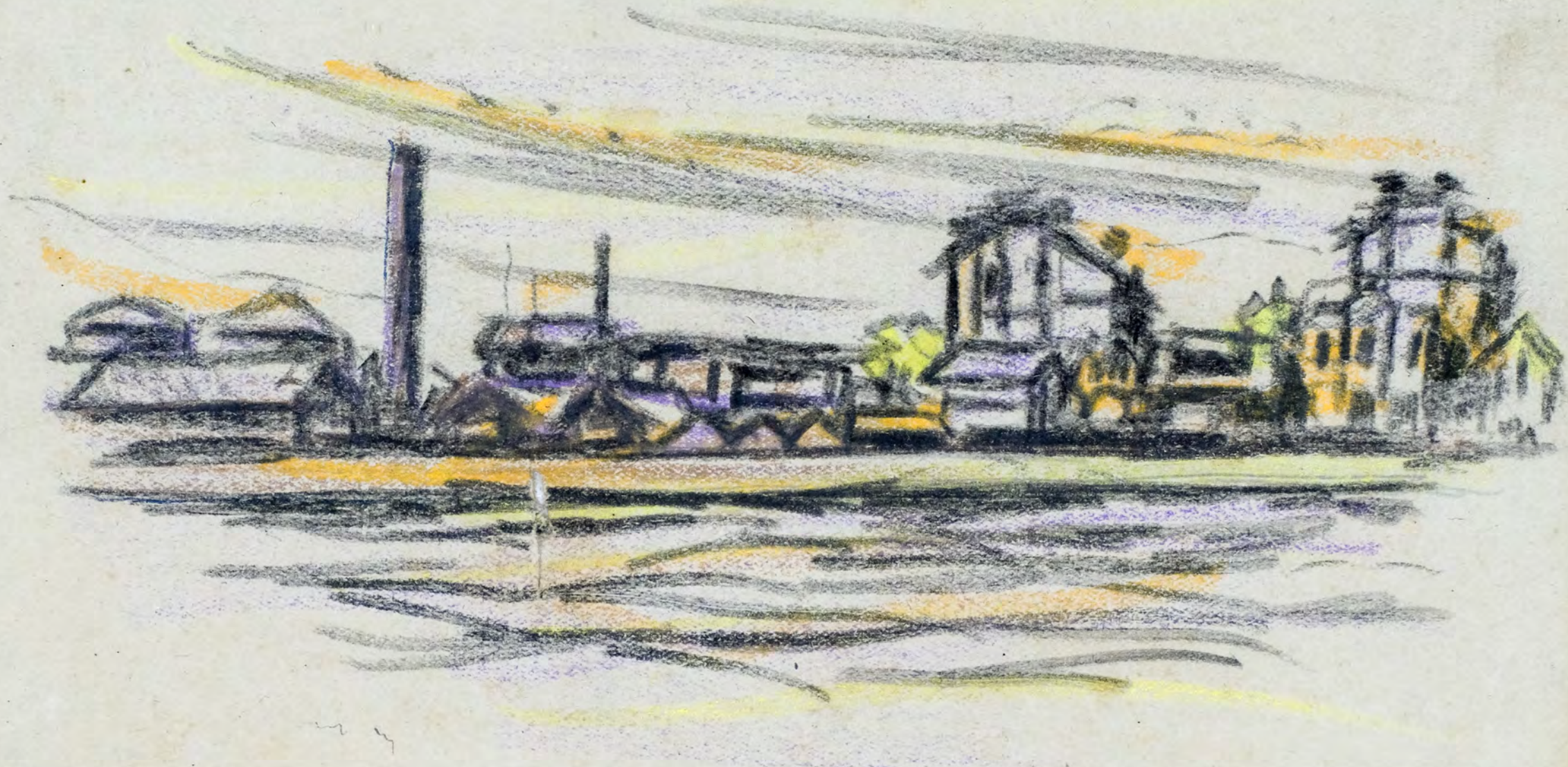


1933.8.4

湖心亭遊園記



1933. 8. 4



清水港

岸壁附近

V133. 8. 1.

